

韓国語のチョコレート

小倉紀藏



「人を好きになるのに理由なんて挙げられない」というのは「冬のソナタ」の有名なセリフだが、ある外国語を好きになるのも、同じことだ。ユジンの言葉でいえば、あるとき、不意にストンと落ちてしまう感覚、とでもいおうか。

私にとっては、ドイツ語と韓国語が、まさにそういう外国語だった。

でも、私がこのふたつの外国語に「ストンと落ちて」しまったのには、いくつかの理由を挙げることができる。そのひとつは、やはりその「響き」の美しさに恋したから、というものだ。

しかしこの「響き」というのは多分に個人的な嗜好に関わるものらしく、その証拠にドイツ語の響きがちっとも美しく感じられない御仁も、世の中には結構いるらしい。

昔、広告会社に勤めていたとき、新発売のチョコレートのネーミングを考える会議があって、みんなであだこうだと案を出していた。ドイツ語やフランス語などの外国語の候補もたくさん挙がっていた。ある男が叫ぶ。「ドイツ語っていうのはしょもなく音が汚ねえなあ!」。私としてはガツンと後頭部を殴られた感じであった。ドイツ語ほど美しい言葉はないと信じていたからである。その下品で無教養な男がいるには、「どうしてドイツ語にはグリヒト（料理）とかゲズント（健康な）とか、ゲがいっぱい付くんだよ。まったく下品だ。チョコレートの名前には絶対合わん。それに比べてフランス語の何と美しいことよ、おお、シャンゼリゼ!」だと。私はドイツ語が不当に冒瀆されたことに怒り震えたが、そのお目出度い男の先入観を正してやろうなどとは思わなかった。そんなことは理屈では所詮無理なのだ。

その後、韓国語にストンと落ちたときも、私はこの

言葉の響きの美しさに惚れたのだった。韓国に留学した当初は、銀行の受付の女性が「オソオシブシオ」とか「チャムカンマンキダリシブシオ」などと発声する音のあまりの美しさに恍惚となって、用もないのに何時間も銀行で過ごしたこともあったのである。その音は、とても人類が発しているもののようには思えなかった。宇宙の彼方にある美しく不思議な星の言葉であると思えた。「いらっしやいませ」「ちょっとお待ちください」といった事務的な言葉を発しているにすぎないのだが、その響きはあきらかに宇宙的であった。

でも、こんなに美しい韓国語を、ほとんどの日本人は美しいと認識していないのだった。韓国語といえば、荒々しい、暴力的だ、がさつだ、感情の露出が劇しい……などというのが、一般的な韓国語のイメージであった。チョコレートのネーミング会議で「ガムサハミダ・チョコ」なんていうのを提案したら、クライアントに殴られていたかもしれない。

ところがどうだ。時はめぐって2004年、「冬のソナタ」をきっかけにして日本全国で韓国語学習ブームが起きるや、この「韓流」ファンたちは、「韓国語はロマンチック」という命題を果敢に提示したのである。「韓国語の美しくて優しい響きが好き」「韓国の男優さんの言葉って甘くて浪漫的ですてき」というわけだ。これは日本における韓国語イメージのコペルニクスの転回であった。「サランヘヨ（愛してます）」とか「ミアネ（ごめんね）」などという言葉の響きが、たえようもなく優しく心地よいものとして認識されたのだった。革命的といつてよい。

私は長い間の孤独からようやく解放された。そしてどこかの広告会社では今ごろきっと、「ミアネ・チョコ」のプレゼンテーションの準備に忙しいのであろう。

（おぐら きざう・韓国哲学者）

遠山顕先生に聞く

教科書を10倍楽しむ法

遠山 顕

(構成・編集部)



●大修館の教科書の印象

英語 I, Oral Communication Iなどを拝見しましたが、生徒のニーズや興味をよくとらえていますね。たとえば *Genius I* のジョージ・ルーカスの話題などそうですね。時事的で、情報を処理する練習があり、さらに生徒が情報を提示・プレゼンするといった流れは新しいところではないでしょうか。

●ご自身の学ばれた教科書で、印象に残るもの

残念ながら断片的な印象しかありません。時事的な内容が少しでもあれば覚えていたかもしれませんが……。英語劇をやっていた関係で、シェイクスピアなどはよく覚えました。

それに対して、印象の強いのが文法のテキスト。なにか「科学」がありそうな雰囲気がありました。SVOの意味はその時はよくわかりませんでしたが、いずれ血となり肉となるのではないかと思います。先生が黒板に書いた「Sが主語でVが動詞でOが……」というのを、頭のなかで I love you. と書いていました。それは知っている数少ない英語で、自分には心躍るセンテンスだったのです。

自分で英文をノートに書き写して、日本語訳も書くと、英語の語順とはこういうものだとかわかってくる。それを口に出して言ううち、構造が見えてきて、面白かったのでしょうね。それがわかって、だから？という人と、面白いという人と分かれていますが、後者だったのでしょうか。「面白い」ということがバネになる人は多い。やはり結局は

fun が進歩に貢献すると思いますね。

文法の授業も、そのような、なにか「発見」をもたらす教え方というのを目指したいと思っています。文の構造をある程度つかむと、特に SVO ですが、それが頼れるナビゲーターになってくれます。それが英文のラッシュ時にも道案内してくれると思うのです。人生も同じで、ちょっとしたルール、大つかみの考え方を教わって、後は自分で動いていくものですよ。

一方で今は、ルールは破るものだとも教えることも必要かもしれない。ルールに忠実に従っていけば実入りがある、といった風潮を感じますが、実際はルールを越えた努力が実を結ぶことが多い。ルールを知ることと、それを越えて新しい世界に立つ自分を感じることは両方とも貴重です。知って越えればいいのですが、越えてはいけなと閉じ込めるのは十分でないと思います。

●教科書で英語を act out する

これまで教えてきて教科書との関わり方の基本に考えているのは、「英語は act out することだ」ということです。英語は身体に入れて動かすもの、あるいは動かされるものだと思っているので、テキストを使う場合でもできるだけ教わる側の学生が「動く」ことを考えています。「動く」にもいろいろな意味があります。心が動く＝感動することから、実際に場面などを演じて身体を動かすことまで含めています。

たとえば読む授業で、学生にあるパラグラフを教師として教えさせます。15分間、1人で授業を

やらせる。そうすると、その人がどんなふうに英語と関わってきたかわかる。僕自身にも発見があり、アドバイスもできる。

スキットまたは短い劇を用いたり作らせて act out させることもやります。何かのテキストを読んだ後、それを元に、グループでドキュメンタリービデオを作らせたりもしました。役割分担し、学生が役を演じ、インタビュアーが取材します。手持ちの資料を中心に作ってもらう。そのなかでは、会話のやりとりを呼吸なども含めて立体的に教えることも可能です。

基本として、テキストの文章を速く読み上げる訓練なども取り入れました。強調や弱化の原理や方法を教えます。今のままでは遅いからです。教科書の1ページなり2ページなりを速く読ませます。それには現在使っている教科書を読むのが一番いいのです。5回続けて声に出して読んで、誰が一番早く読み終わるか競争させたりしました。

●「リーダーズ・ハイ」の経験を

ジョギングなどをされている方はわかると思いますが、走り始めて最初は苦しくてもしばらく走っていると気分が高揚してくるんですね。僕は読むこともこれと同じだと思います。ランナーズ・ハイにならって、「リーダーズ・ハイ」と呼んでいます。今の学生たちにはある種のハイになることの経験が欠けているのではないのでしょうか。他のスポーツや勉強にも絶対にハイがあるはずで、それは上手い下手と関係ないと思います。たとえばショウジョウバエの実験をしていて、なかなか理論通りにいかないけれど続けているうちに、ある時点で数えること自体に喜びを感じるような、なにか違う次元に行ってしまうというようなことですね。発明王エジソンの電球作りの話では、適切なフィラメントを得るのに5千〜6千種類もの素材を次々と試していったそうですが、これも一種のハイがあったのでしょうか。

こんなふうにハイになるところまでいかせる、



それを経験させる。僕の場合は高校時代、2時間、3時間と音読を続けて、気づいたら明け方まで読み続けていたこともありました。それによって、その時に抱えていた問題から逃避したり、忘れることができたんでしょうね。ケネディ大統領の就任演説を暗記して、音程までまねをして、「ケネディみたいに聞こえる！」と思ってしまったり。とにかく、なんらかのハイを一度でも経験させたいと思い、それをクラスでもよくやらせていました。

●音読してつく力

母語が^{とつとつ}訥々とした人も、外国語は速度が落ちるので、口の練習はしたほうがいいと思います。一息で言うことには、意味のチャンクがあり、それがある程度まとまった形で出るとは外国語でも大事です。意味を自分でつかんでいても、話す時にあまりにも口が動かないと、相手はわかってくれないかもしれない。

音読するのは発音のためでもあります。意味を感じながら音読していくことが、その人の総合的な力をつけていくような気がします。ある程度 reduction などをわかっていた方がしゃべりやすいし、リスニングの際にも大変役立つ。

さらに、成果を人前で言う、というのも意味があります。たとえば早口言葉を教えたあと、1学期内に必ず発表させますが、クラスではやりません。僕を廊下で呼び止めてもらい、その場で言うてもらおうようにします。廊下ですから学生はすぐ

いプレッシャーを感じます。人前で、というのは授業中以外にもいろいろな形があるはずですが、こうしたやり方は地味ではありますが、力をつけるには近道だと思いますね。

●高校生レベルで培ってほしい英語力

当然ですが、英語力は発音・文法・語彙の力を増やさなくてはつかないものです。発音の力とは完璧な発音をするためではなくて、英語が話しやすくなるためのものです。また、ブローケンでいいという人もいますが、できるだけきちんとした文法で話した方が将来いいと思うんです。ブローケンでもしっかり仕事ができるという人は、人格や経験にバックアップされている部分が多く、これらが実は一番重要な要素かもしれません。

あとは、何でも食べられる、自分のミスを受け入れる、質問がちゃんとできる、この3つは身につけてもらいたいですね。異文化に入ったときの重要要素はこれだと思います。結局、食わず嫌いはだめ、自分のミスは他人に笑われる前にまず自分で笑えなければだめ。質問の仕方がわからないと困るでしょうから、どうしてもわからない人はWhy? だけでも知っていればいい。

英語に限らず、学校でなにかを教えることは、究極的には人生の問題解決能力を教えることだと思います。それにはロジックやリーズンなどの能力だけでは十分でなく、メタファーやアンビグイティーなど、理屈だけで解決・理解できないものへの対応も示唆すべきではないでしょうか。発想転換力を英語で、ということとちと大げさですが。

たとえば今は、オヤジギャグといわれてしまうだけじゃれですが、the lowest form of humor と呼ばれる一方で、最低限必要なユーモアです。言葉の力の根源であり、発想転換力のベースです。言葉遊びを土台の一部に取り入れられない言語文化というものはないと思います。一歩進んだ rhyme (韻) などは、洋楽、詩、広告など、「実用」への目を開くものです。そうしたものを教えずに、情

報のやりとりだけになってしまうのはどうなんでしょう。高校生にはリニアに順を追う思考法だけでなく、目標を見定めて入口を探すような発想法も望ましいと思います。

コミュニケーションという面では、双方向だけでなく、一方通行のコミュニケーションもできる力をつけて欲しいですね。たとえば、人生のエピソードを物語る、伝えるといった際に必要な、1人で聞かせる、演じる力、つまり独演力です。歌を歌ったりする時の表現で、carry a tune という言い方がありますが、自分の話を最後まで carry してやり通す力というのを付けてもらいたいです。日本は高校でも1歳違うと先輩で、「です・ます」をつけるなど言葉遣いも変わってしまう文化ですが、英語にはそれほどの区別はなく、もっと水平なやりとりが身上とも言えます。その語りやすさに気づいてほしいです。

●「理想のテキスト」とは？

テキストブックというより、テキストボックスのようなものがあつたらいいと思います。本だけでなくMDや録音装置などもついていて、たとえば手本になる演説などを好みの音程やスピードに合わせて再生できるような。もちろん歌も。それに『2001年宇宙の旅』に出てくる人工知能、HALのようなソフトが入っていて、学習のガイドとして交信してくれるといいですね。英会話の教室などでは、学習者が自分の殻から出たときに急に上達するのをよく目の当たりにしますが、そんな「殻破り」の手助けをしてくれる存在が搭載されていれば……。持ち歩いても格好がよく、いつでも練習ができる、リスニングができる、歌も歌える、NHK『英会話入門』も聞くことができる(笑)。この4月から開始するラジオ講座『英会話入門』(NHKラジオ第2放送、月～土)でもコミュニケーションの楽しさや話し・聞く技術を15分間体験してもらえればと思っています。

(とおやま けん・コミュニケーション代表)

【コラム】

センター試験リスニング テストの傾向と対策

小森清久

試行テストのアンケート結果から、サンプル・データを基に差がつく問題を設問別に分析し、傾向とその対策をまとめてみる（問題の詳細は http://www.dnc.ac.jp/center_exam/18exam/listening.html を参照のこと）。

第 1 問《対話ヴィジュアル型選択問題》

20～30 words 程度の「身辺雑記」（問 1 プレゼント，問 2 道案内，問 3 注文，問 4 計算，問 5 出席者数，問 6 買い物）に関する対話を聴き，イラスト・数字などを選択する問題。

【難易度】英検 4～3 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】問 4，5 の正答率が低い。下位レベルほど，聞こえた「数」をそのまま解答にする傾向が強い。聴き取った情報や数字をメモしておき，後で計算する工夫が必要。*Departure* にある「店」での会話などを素材に，単純な計算練習を勧める。

第 2 問《対話応答型補充問題》

15～30 words 程度の「身辺雑記」（問 7 スケジュール，問 8 レストランの場所，問 9 問診，問 10 待ち合わせ，問 11 手伝い，問 12 診察，問 13 転勤）に関する対話を聴き，それに続く発話を選択する問題。

【難易度】英検準 2 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】この形式はある程度のスピーキング能力が要求される。また，リスニング能力以外に短時間で選択肢の短文を読み取る力が必要になる。次の 3 問に関しては，全レベルで正答率が低い。問 9 How long ～? に対する応答などは，*Departure* にある「空港」での会話文：How long are you going to stay here? — One year. の箇所などをペアで練習することを勧める。また，問 11 では平叙文に続く文を考える。But などの談話標識（discourse marker）を用いた練習を取り入れることも勧める。問 13 は時制の理解が要求されている。*Departure* にある「電話」での会話

文：When (will you arrive here)? — I will arrive (at 11:20 a.m., August 30). の箇所などをペアで練習することを提案する。

第 3 問 A《対話質問型内容選択問題》

45～65 words 程度の「身辺雑記」（問 14 レンタルビデオ，問 15 買い物に行く手段，問 16 バーベキューの準備）の場面に関する対話を聴き，質問に対する答えを選択する問題。

【難易度】英検 2 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】*Departure* の対話文に設問と選択肢をつけ情報の取捨選択の練習をすることを提案したい。

第 3 問 B《対話ヴィジュアル型図表完成問題》

100 words 程度の「1 週間の予定」に関する対話を聴き，イラストを選択して図表を完成する問題。

【難易度】英検 3～準 2 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】少し長めの対話になると，本文中の言葉につられる傾向が強くなる。下位レベルで正答率が低い。*Departure* にある場面別の 100 words 程度の会話練習を勧める。

第 4 問 A《短文型状況把握問題》

50～85 words 程度の英文（問 19 レストランの予約時間，問 20 買い物，問 21 セミナーのプログラム）を聴き，質問に対する答えを選択する問題。

【難易度】英検準 1 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】事前に質問と選択肢に目を通し，状況を把握しておく。「完全に聴き取らなければならない」のではなく，カギとなる情報がどこにあるかを掴む練習をする。*Genius English Writing* の 80～100 words の英文に質問と選択肢をつけ英文を聴き取らせる練習をするのが効果的。

第 4 問 B《講義型内容把握問題》

200 words 程度の「リサイクル」の講義を聴き，質問に対する答えを選択する問題。

【難易度】英検準 1 級～1 級程度。速度＝150wpm

【傾向と対策】事前に質問と選択肢を素早く読み取る力が必要。*Genius English Course* の一場面を聴かせそれに設問と選択肢をつけると効果的な練習になる。

●教科書を柔軟に使用し，同じ英文を繰り返し聴かせてください。

（こもり きよひさ・河合塾講師）

Genius English Course I・II

「共感する力」を培いたい



前田由紀恵

Classroom dynamics という言葉を知ってその意識を持ち、生徒と interact する授業を目指して試行錯誤すること10年、素直で意欲的な生徒に恵まれ、ほぼイメージした通りの授業ができるようになった。「…についてはどう?」と問いかけると、生徒が答えや意見を大きな声の独り言としてその場でしゃべってくれる、その声を拾い集めながら授業を進めていく。言葉を学ぶ本来の意義を忘れずに、文字の世界を頭の中でいきいきと visualize してドラマの中に入り込み、心から泣き、笑い、怒り、喜び、悲しむ……そんな人間臭い仮想体験を生徒と共時的に味わいたい。驚きの事実には驚き、うまい描写に唸り、心の支えになりそうな名言を心に刻み込む、そんなことを目標としている私の授業で、*Genius I* を使った場合の simulation を以下に考えてみる。

●「声」を聞くことから「共感する力」へ

全体を通読して、*Genius* は concept がわかりやすく、向かう方向が明確で、底に流れている philosophy に共感できると感じた。構成が見事で、まず Lesson 1 で、現代社会の重要課題として、テクノロジー、環境、平和が設定される。鍵を握る global communication について、Lesson 2 でその概念を明確にする場面が設けられる。そして、夢を抱くこと、努力をすること、平和、国際協力、福祉……とテーマが連ねられていく。前の lesson の深め方が次の lesson の充実につながる予測される。また、英文の分量が多すぎず、極端に難解な英文もなく、素材が自己主張し

すぎないので、扱う側の創造意欲がかきたてられる。1年間というスパンでの展開を思い描きながら、それぞれの課のテーマに沿って思いのたけを語りながら、生徒にも語らせたい。そんな気持ちにさせられる。なかでも Lesson 4 (“Proud Panther”：困難に負けず勉強に励むゴニアの少女の話)に惹かれた。

私が自分の授業のモットーとしてしていることが Lesson 2 に書かれていた。“First, communicating well in another language begins with active and open listening. Listen carefully to others. (中略) Second, ask questions about the other person’s life, but also share information about yourself with others. **It’s a give and take.**”

take と give の間にある大切なこと、「共感する力」を培いたい。それには「声」を聞くことだと信じている。行間から聞こえてくる登場人物の心の声、その人が誰かに伝えた声・言葉、声に伴う表情、また、ある表現にこめられた筆者の声・メッセージ、また、同じ教材に触れて何をどう感じたかという仲間の声・感想、それらにこだわって授業を組み立てたい。各セクション初めの Points in Reading は概要をつかむための問いであり、脚注の FIND は精密な読みをするための問いである。それらとは別に、ここで授業を楽しみたい、と思う箇所についての問いかけを Lesson 4 に関して考えてみた。問いかけも答えも all English にこだわる必要はないと考える。英語と日本語の両方を使って考える訓練をして、次第に英語だけの世界に移行すればよい。

●授業を楽しむ「問いかけ」例

§1 ① It isn't 8:00 a.m. yet, but Finda has already been walking for three hours. She is on her way to school — nine kilometers from her home in Kindia, Guinea. (中略) The walk is tough, but at school today Finda is happy because she meets ② her best friend. Recently, this friend returned to school. She has been missing many of her classes because her family needed her help at home and so she had trouble getting to school.

問いかけ ① When you have been walking for three hours alone, how do you feel? (I feel very tired.などを期待) では、Findaは何を考えながらどんな気持ちで歩いているのでしょうか。これに関しては、ここだけではわからないので、また後で聞くことにします。心に留めておいてください。

② best friendという言葉を知るとどんな感じがしますか。思いつく語をどんどん言ってみてください (happy, trust, smile, chatなどを期待)。Findaの場合、そのbest friendにしばらく会えませんでした。その理由も考慮に入れながら、会えない時に心の中で願っていたことを、英語または日本語、できれば英語で表現してみよう。また、best friendが学校に帰ってきた日、Findaはどんな言葉をかけたでしょう。想像して英語にしてみよう。

§2 In the evening, Finda returns home along the same long road. She says that ③ the branches along the way “look like witches’ hands” and make her afraid. ④ She is always happy to see the first of the village huts. She sees her father, and he comes to meet her with a light. As usual, ⑤ he has been waiting at the edge of the village for her to arrive.

問いかけ ③木の枝がwitches’ handsのように見えるのはFindaの心理状態の反映だと思えます。帰り道Findaはどんな気持ちで歩いていただろう。英語または日本語、できれば英語で考えてみよう (It's so scary. I want to reach my village

as soon as possible.などを期待)。

④⑤村のhutが目に入ったらどんな気持ちができるだろう。表情で、仕草で、言葉で表現してみてください。また、出迎えた父親はどんな表情でどんな言葉をFindaにかけるのでしょうか。色々な父親のパターンを想像しながら考えてみて。

§3 Her father, Papa Tolno, is a proud man. Now he is a rice farmer. When he was young, he fought in the Algerian War and had many experiences. He had been living in a village with no schools. (中略) He wants Finda to do better. He says that ⑥ education is a passport to discovery. If she does not study, he says, ⑦ she will spend her life like a “wounded panther.”

問いかけ ⑥具体的にどのようなことなのだろう。やさしい英語で説明を考えてください。When do you need a passport? What is a passport for? (We need it to go into a foreign country.などを期待) So, when you get education, what can you do? (We know a lot of new things.などを期待)

⑦ (黒板の両端に、雄々しい姿のpantherとa wounded pantherの絵を大きく描いておく。) それぞれのpantherを形容する言葉を言ってみてください (生徒が挙げる語を黒板にどんどん書いていく。proud, strong, leadership, respected, rule / sad, pain, sorry, unhappy, ashamed, lonelyなどを期待)。ではspend her life like a “wounded panther”とはどういうことですか、グループで考えてみてください。(§4については省略)

* * *

もちろん多くのヒントを与えながら、自分の考えも小出しにしながら、誘導していく。生徒がぼんやりと心の中で考えたことや感じたこと、ぱっと思いついてもそのままにしておくと消えてしまうことが、言葉を探ることによって、輪郭がはっきりしてきて、印象深く心の奥深くに入っていく。それを表情の変化に見ることが喜びである。

(まえだ ゆきえ・新潟県立三条高等学校教諭)

Captain English Course I・II

強く生きる力を生徒に



高橋正広

「英語なんてどうせ分からないから。」「無理。できっこない！」などと、英語に対して苦手意識を持ってしまった生徒はクラスにいませんか。そんな生徒に、初めて英語に触れた時の感動を思い出してほしい。英語は特定の人だけが話すものではなく、誰もが楽しむことのできるものだということを知ってもらいたい。Captain English Course はこのような方針で作られた教科書です。

今回は Captain I から3つのレッスンを取り上げて教案作成のアイデアを紹介します。教科書本文に目を通す前に、Your Turn! (各レッスンの最後にある演習問題)を見て下さい。[C] 問題にはレッスンの表現を使った言語活動があります。それは各レッスンの最終目標とも考えられます。一般的にはGet Readyを行い、本文を読み、続くFor CommunicationとYour Turn!に目を通してから指導案を作るのですが、今回は発想を転換し、最終タスクを確認してからレッスンをどのように教えるかを考えていきたいと思います。

●Lesson 4 “Be Your Own Captain”

Your Turn! [C]を見ると、“want(ed) to”を使った表現がこのレッスンのねらいであることが分かります。次にGet Readyと本文で課の重点項目を確認し、右上のプリントを作成します。

(2)(4)が難しいですが、適宜“I practiced it very hard”や“I want to be famous”などの例を出します。この活動は本文に入る前の動機付けとして行い、“want to”に限定して動詞の現在形と過去形の違いを説明します。生徒に英文を書か

Hello. I'll tell you about my dream.

今日は。私の夢について話をします。

When I was a child, I wanted to be (1) because I (2).

子供のころは (1) になりたかった。(2) だからです。

Now I want to be (3) because I want to (4).

今は (3) になりたいです。(4) だからです。

The most important thing is our effort toward our dream. We are the captain of our life. Thank you.

一番大切なことは夢に向かって努力することです。私たちが人生のキャプテンなのです。ありがとうございました。

せる作業はALTとのチーム・ティーチングで行うと効果的です。プリントが完成したら発表の練習をします。プリント最後の下線部は先生の解説が必要でしょう。その際、文法的な説明を最小限にとどめ、その代わり生徒に何回も音読するように指導します。プリント作成と発表準備にそれぞれ1時間ずつかけます。

発表はクラス全員が行うのが好ましいですが、無理ならばできる範囲とします。一人一人の発表の後に“What did s/he want to be?”や“Why?”などの質問をALTにしてもらい、答えた者にはポイントを与えるなどすると、クラス全体を授業

に参加させることができます。発表の次の授業から Get Ready で文法解説をし、本文を読んでいきます。本文のキーワードをすでに理解し練習した後なので、本文の内容把握は生徒にとってより簡単になっているはずです。本文最後のパラグラフは発表で使用する何回も繰り返し音読しているので、生徒にはなじみのあるものになっているでしょう。また、レッスンの結論を本文を読む前に与えることによって本文の理解は容易になっているとも言えます。最後のパラグラフでは日本語を使わず、音読だけで生徒の理解を確認できたら、このレッスンは大成功です。

本文の後、For Communication, Your Turn! [A] [B] へ進み、[C] を見たとき生徒は授業の全ての枠組みを理解します。「君たちが優秀だから、この課の最終目標であるこのタスクはもう終わってしまっているんだよ」と言って生徒に自信がつけば、お互いに大きな達成感を味わえるでしょう。

●Lesson 8 “A Helping Hand”

このレッスンでは班別にポスターを作成する中で受身を学習します。まず、老人ホームへの支援として考えられるものを “Let’s ～” の形で 2, 3 文作ります (例: Let’s send origami. Let’s talk with them. など)。次に、下の型に考えた英文を当てはめてポスターを作ります。

Give your energy and time for

Senior Citizens!

Let’s ～.

Let’s ～.

A lot of things CAN BE DONE.

ポイントは、ポスターにある英文の文法解説を最小限にすることです。“can be done” という表現を基礎から説明するのは大変なことです。 “be done” は「なされる」、 “can” は「可能」、だから英文の意味は「多くのことがなされます。そ

れは可能です。」などと簡単に教えます。ポスターの英文を何回も練習して全て暗記した上でグループ発表させることによって、例文の定着を図ります。つまり “trick them into practicing many times” するのです。受身の詳しい文法説明はこの後に行い、「できることはたくさんあります。」という例文の正しい訳は “can be done” が本文に出てきたときに考えさせます。

●Lesson 10 “War of the Landmine”

このレッスンでは班別にクイズを考えさせ、有名人の名前を当てさせます。まず、下の型を完成させます。

This is a person. He likes (1).

He is a (国名形容詞) person. He is (2).

例: This is a person. He likes soccer.

He is a British person. He is good-looking.

次に下線部を “who” に変えて 2 文をつなげるように指示し、音読練習してからクイズを始めます。ポイントは(2)に形容詞を使うことで、語彙リストを作っておいてもいいでしょう。

* * *

これらレッスンにはひとつの共通のメッセージがあります。「自分たちの周りには様々な境遇の人がいる。その生き様を見て、皆さんも強く生きてほしい」。 *Captain II* の Lesson 9 “Don’t Give Up” には特に強く、その願いが込められているように感じられます。英語 I, II の総仕上げとして、自分が最も印象に残った文を抜き出し、カード等を書いて大切な人に贈らせても、英語を 2 年間勉強した達成感を味わわせられるでしょう。

英語の学習は大事なことです。しかし言葉を使うのは人です。 *Captain* は人を育てる題材を提供し、生徒の生きる力を育てる教科書です。

(たかはし まさひろ・神奈川県立大和西高等学校教諭)

Departure Oral Communication I 教科書で伸ばす「言語生活力」



岡本芳朗

「言語生活力」とは中教審の国語専門部会で話題になっているもので、簡単に言うと「具体的に様々な言語生活場面を学校生活での言葉の教育に持ち込んで育成する力」である。こうした場面を作り出すのは、国語の授業もさることながら、英語の授業、特に OC の授業はピッタリだ。

外国人宿泊客の多いホテルでは、客室案内や荷物の取り扱いをする bell はホテル内の施設・サービスについて、また concierge はホテル周辺の名所・交通手段についての情報まで熟知し、それを英語でわかりやすく伝える力が要求される。したがって、彼らは就職後にそのための特別なトレーニングを受ける。高校生は、その多くが社会人予備軍で、ホテルのみならず多種多様な職種につく可能性がある。したがって、OC の授業に求められるのは、様々な分野や場面で英語を使用することを視野に入れた、将来の特別なトレーニングに耐えうる基礎的な「言語生活力」の育成であろう。そんな要求に応えられる教科書 *Departure* の様々な工夫をご紹介します。

●真面目で高品質な教科書

Departure は多角的に様々な観点から編集された真面目な教科書。いわゆる優等生的な教科書であろう。教科書という性格上、誰が扱っても一定レベルの授業内容が維持できるものでなければならない。したがって、しっかりとした高品質なものでなければならない。当然、題材があまりに偏ったものは好ましいとは言えない。

Departure では様々な「言語生活力」の育成が

図れるように、16 の Lesson が用意されている。これは、OC の教科書の中ではかなり数が多い部類に入る。そして、授業者が扱いやすいように、整った構成がなされている。全体は Unit 1～4 の 4 部構成になっており、各 Unit には 4 つの Lesson がある。そして、各 Lesson は、以下の順に 4 ページで構成されている。すなわち、 $4 \times 4 \times 4$ というわかりやすい構成だ。さらに、単なるワークブックとは一味違う『学習ノート』をはじめ、充実した副教材をこれに組み合わせれば、至れり尽くせりである。

1. Get Ready——無理なくテーマを導入

Lesson の最初のページでは生徒のスキーマを活性化し、それぞれのテーマへ無理なく入ることができる。アプローチにはいくつかのパターンがあるが、基本的には音声を伴ったビジュアル的な活動が中心となっている。また、各 Lesson とも、低いけれども「ちょっとした発見」というハードルを設けている。



2. Listen & Speak——Input から Output へ

2 ページ目では、Listening による英語の In-

put と、それを利用した Output の活動を行う。後者については、生徒の英語力に応じて、授業者が目標とする英語のレベルを様々な設定できる。発展的な活動も含め、展開の詳細については TM に紹介がある。

3. Dialog——身近な場面で「言語生活力」アップ

3 ページ目の Dialog の Go! には連続したストーリーがある。その展開は、Unit 1 では大半が日本の高校を舞台に留学生と日本人高校生との間での異文化理解を、Unit 2 は舞台は日本だが、道案内や買い物など学校外の場所での英語による会話を設定している。そして、Unit 3 では日本人高校生が留学先のアメリカで経験する習慣などの違いを、最終の Unit 4 では舞台を再び日本に戻し、電子メールやルーツをたどれば外国のものだった日本の習慣なども取り上げている。

Unit 3 の留学に關しては、やや現実性が薄い

かもしれないが、
 高校生の留学が増えている現状もあり、
 いずれのレッスンも「言語生活」の育成にとても役立つもので、
 授業を通して生徒は無理なくその力をつけていけるはずである。

Dialog

Teacher

Today we are going to study about the exchange students in Japan.

What are you going to do?

A (1) I'm going to study in Japan. (2) I'm going to study in Japan. (3) I'm going to study in Japan. (4) I'm going to study in Japan.

B (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

C (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

D (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

Teacher (1) I'm going to study in Japan. (2) I'm going to study in Japan. (3) I'm going to study in Japan. (4) I'm going to study in Japan.

A (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

B (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

C (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right

D (1) a. right (2) a. hope (3) a. hope (4) a. right



Linden
EXCLUSIVE
PRINTING

Listen & Speak


 Listen to the audio at the menu of the Restaurant BIG STAR, listen to the English exercises 1 – 10, listen 7 times! for those that are correct and 7 (false) for those that are not.

1 point



1) 2) 3) 4) 5) 6)

Relating to the above menu, complete the dialog below. Next, make notes, infer the underlined parts with words of your own, and practice the dialog.

Server: Are you ready to order?

Customer: Um... What's Today's Special Lunch?

Server: _____

Customer: OK. I'll like to have that.

Server: Anything to drink?

Customer: _____ please.

What Delights Print 15

4. Task と Function——ステップアップと確認

4 ページ目の Task の活動に関しては、各 Lesson と前ページの Dialog を参考にすれば、最低限の活動はできる。しかし、「言語生活力」のさらなるステップアップを図りたい場合は、授業者のアイデア次第でかなり高度な活動に発展させることも可能である。

授業者の腕の見せ所と言えるかもしれない。もちろん、TM にも発展的活動の具体例は紹介されている。そして、Function では、機能面から各 Lesson で押さえるべき表現を再確認することになる。

●日本人教師にも便利な ALT 用テキスト

Departure

には打ち合わせや授業でALTが利用する目的で作成されたALT用のテキスト (Departure OC I For ALT) がある。実は、これは日本人教師がオールイングリッシュで授業を展開するのに非常に役に立つのだ。

また、前述の『学習ノート』については、予・復習のみならず、「授業中にその授業内容を形に残す」という意図で用意されたもので、利用してみるとその便利さがよくわかるはずである。

(おかもと よしろう・岡山県立岡山芳泉高等学校教諭)

[illegible]

Dialog

Before
 前
 前
 前

「ホー」のうしろに上声がついて2回繰り返します。「ホー」からつづいてめめめかきこえてくる音で覚えるから、「ホー」の音を音程にのせて覚えるのがよい。ハイハイに聞こえてくるので、練習するときには、練習する場所を注意する。

After
 後
 後
 後

(1) a. ogit (2) a. hagit (3) a. hagit (4) a. ogit
 b. ogitied b. hagit b. hagitied b. ogitied

After
 後
 後
 後

◎ 夏目漱石 *Heartway* 先生のアパートを訪れ、夕食をこちらへお持ちした。英文を共に読んで、内容を理解できるようにしよう。

Mr. Heartway talks to

Here you go.
 こちらへ。

H: Would you like some more soup, Rika?
R: Yes, but () a little, please.
H: Here you go.
R: Thank you, Ms. Heartway.... Oh, I'm ().
 That was a wonderful dinner.
H: Thank you. Now, () would you like to have for dessert? I have chocolate ice cream, apple pie and pudding.
R: Oh, I would like some apple pie.
H: Would you like something to drink, too?
R: Something (), like iced tea, please.

After
 後
 後
 後

下線部分のうしろに半角大文字を入れて、内容理解できるようにしよう。

A: What would you like to have for dessert?
B: I would like some apple pie.
A: Would you like something to drink?
B: Something cold, like iced tea, please.

After
 後
 後
 後

reading
 リーディング

 **Listen & Speak**

● **ミニテスト** (1) 以下の英文を読み、**日本語**と**英語**の両方について T/F (True/False) を書きなさい。

▶ **expressive**
mini-test



(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____ (5) _____

● 次のメニューを参考にしなさい。以下の会話の空欄を埋めなさい。25点

ペーター: 今晩は。ここにいらっしゃいますか。アリス: はい、そうです。

ペーター: Are you ready to order?

Customer: Um... What's "Today's Special Lunch"?

Server: _____

Customer: OK. I'd like to have that.

Server: Anything to drink?

Customer: _____ please.

What Delicious Food Is

Genius English Writing

ライティングの授業でスピーキング力UP

百瀬美帆



①はじめに

ライティングの授業は文法の説明、例文の暗記、和文英訳とその添削といった流れになりがちではないでしょうか？ 生徒に英語で何かを発信させるためのインプットが教師からの一方的な説明になってはいないでしょうか？ 生徒自身の英語で表現してみたいという意欲を失わせないための工夫が必要です。ここでは、スピーキング、リスニング、音読を取り入れた授業方法を紹介します。

②スピーキングで動機づけ

授業の導入に決まったスタイルをお持ちですか？ 私は英語 I, II, OC, リーディング, ライティングのどの時間も最初に、生徒同士で簡単な会話をさせることにしています。年度初めの授業で次の方法を指示しておきます。

① 4人グループをつくる

② 次の順番で他の3人と立って会話する

向かい合っている者同士→隣り同士→

斜め向かい同士

③ 3人との会話が終わったら座る

この導入に割く時間は5分から10分です。毎回行うので、生徒にとっても日常生活から英語授業へとスイッチを切りかえる動機づけになっています。

Genius English Writing の Lesson 1 “A Letter from Brian Johnston” を題材に、具体的な授業の流れを示してみます。

(1) トピックと Today’s Question の提示

授業で扱うトピックや、教科書に出てくる表現を使って生徒に質問を投げかけます。このレッスンでは、手紙とEメールについての Today’s Questions を提示し、生徒がその質問を使って会話できるように口頭で練習します。

“Do you often write letters to your friends? I haven’t written a letter for a long time. Instead, I often send emails to my friends because I can send them whenever I like. Then, today’s question is ‘How do you give your message to your friends? By writing letters or emailing? Why?’ Now, everyone, listen and repeat after me.”

このレッスンで扱う文法事項にとらわれることなく、場面に応じた自然な表現を練習させます。また、必要があれば解答例も1, 2例示しますが、こちらも正確な文章で答えることよりも、内容を重視して、(I like) Emailing (better) because it is faster (than writing letters). のようにキーワードが含まれていれば解答できたものとします。全員が着席したら、数人の生徒を指名しグループの解答をまとめて報告させます。

(2) リスニングとリプロダクティング

次に、テキストを見せずに、モデル文を聞かせます。このモデル文は高校2年生から3年生がいつべんに聞き通すにはちょうどよい分量で、語彙レベルも適切だと思います。

生徒は各自のノート等にメモを取りながら聞くようにし、そのメモを参考にしながら、教師の質問に答えます。この Q&A で確認された情報をも

とに生徒がモデル文の内容をリプロダクトできるように、質問を工夫します。

私の場合は、答える生徒を指名せず、クラス全体の発言を促します。複数の発言の中から正しい情報をピックアップしてキーワードのみを板書します。

次のステップは、板書されている情報を自分の言葉でつなぎ合わせていく活動です。ここで生徒が「表現したいがうまくできないもどかしさ」を感じたり、「表現できた喜び」を感じることが大切です。発表は、緊張により意欲がそがれないようペアやグループ内で行います。その際に“Dear Junko”と始めることだけ指示すると、生徒がスピーチを始めやすくなります。

実はこの活動は、Exercise C とほぼ同じ内容です。この段階では口頭発表にとどめ、後で書かせてみることもできます。その際には「正しく書く」ことを活動の目標とします。

③音読でインプット

いよいよ教科書の出番です。モデル文の大意はもう理解できていますから、今度は付随する情報も含めて正しい表現でインプットしていきます。テキストを見ながら CD (テープ) について読むシャドウリーディングを行います。(1), (2)の活動で話していた英語から、正確な英語にレベルアップするために、正しい英文を繰り返しインプットし、発信する際には語句や表現が自然に出てくるようにさせたいものです。

続けて Study Points に入ります。あげられている短文はどれも一目できるちょうどよい長さです。CD (テープ) を聞きながら文を黙読し、ポーズの間に顔を上げてその文を音読します。生徒がテキストから目を上げて発声していることを確認します。この活動の目的も、モデル文の音読と同様に正しい英語のインプットですから、1 回ではなく数回繰り返します。

モデル文、Study Points とともに、定着を確認する方法としては暗記や書き取りがありますが、モデル文については、定着させたい表現以外にストーリー固有の情報が多く含まれていますので、モデル文を丸暗記するというのは、実用的ではありません。

Study Points については、書き取らせるのもひとつの方法と思われますが、私の場合は「書く」活動はすべて Exercises で行い、ここではさらにインプット量を増やします。

Lesson 1 では、第 1・第 2・第 3 文型を指導するようになっていきますので、それぞれに用いられる動詞の説明を簡単にした後、別の例文を口頭で伝え、3 つの文型に分類していきます。

ここまでの活動は基本的にはオールイングリッシュで行います。

④ライティングで正しくアウトプット

ここまでの活動では、生徒の「表現したい」意欲を先行させ、その意欲に英語が導き出されることを重要視しましたが、最終的には各レッスンの Exercises を利用して正しい英語を書くことを科目の目標とします。スピーキング活動で見逃される冠詞の誤用や時制の誤用も厳しくチェックします。同時に、日本語と英語の表現を一対一で対応させるのではなく、「こういう言い方もできる」という可能性や、複数あげた表現の使い分けも指導しなければなりません。この部分は JTE 1 人ではなかなか指導しきれませんので、ALT の力を借りるようにしています。

⑤おわりに

何かを伝えたいという意欲そのものが減少している人が増えているように思います。英語以前の問題です。おしゃべりしたり文を書いたりする楽しみを思い出させることも私たち教師の役目なのかもしれません。

(ももせ みほ・千葉県立千葉女子高等学校教諭)

Genius English Readings

読解力と自己表現力の向上を目指して

加藤治之



①はじめに

リーディングの指導を行うとき、語彙・文法指導・内容理解にとどまることなく、(1)自己表現につながる英語の内在化、(2)「読む」楽しさ、(3)読書量の拡充にも留意したい。

(1)について

「読んでわかれば終わり」ではなく、音読による身体への「取り込み」をさせ、それを基に自己表現につなげていくところまで指導したい。

(2)について

生徒には「英語を読むことは楽しい」という実感を持たせたい。そのためには教授者が指導に工夫を凝らさねばならないし、教科書選定も慎重に行うべきである。なんと言っても題材の善し悪しが決定的意味を持つからである。

(3)について

勤務校の英語 I の教科書の総語数は、約7,300語である。英語IIでこの2倍、リーディングで3倍の量に触れるとしても、 $7,300 \text{語} \times 6 = 43,800 \text{語}$ で、ペーパーバック数十ページ分にしかない。副読本を用いた多読の必要性がここにある。ただし、本稿では多読については扱わない。

②授業の実際

以下は、Lesson 3 “The Book of Thoughts” を題材にした授業の実際である。

(1) 課の概要紹介

主人公 Chester が偶然手に入れた古びた本 “The Book of Thoughts” は人の心を読み取ることができた。同僚が自分のことをどう思ってい

るかをその本で確かめることによって仕事上の成功を収めた Chester だが、周囲の人々の自分に対する評価をその本で知り愕然とする。他人の真意を知りたい気持ちはついに大好きな Dorothy にまで及ぶが、意外な結末に終わる。

(2) 指導手順と配当時間

①Oral Introduction

新しい課に入る初めの授業時にのみ行う。時間は1分程度。軽く済ます。

②単語テスト (②～⑤を1セットとしてセクション単位で実施し、課の最後まで繰り返す。これが一度目の通読になる。2時間配当)

i) 英→日・日→英の問題。重要語句に絞り、フルセンテンスで尋ねる。

ii) 単語リスト (単語テストに正答を記したものを配布し、各自添削させる。

③単語ペアワーク

発音練習後、単語リストを用いペアで英→日・日→英のクイックリスポンス練習をする。

④大意把握

i) 1セクション分を印刷したテキストを黙読させる。時間は100wpmのスピードを基準にする。(e.g. Section 1は397語なので4分間)

ii) 大意把握に必要な質問を英語で行う。生徒は答えを含む英文に下線を引いていく。

iii) ii) の質問一覧を配布し、答えを確認する。

⑤文法指導

重要または難解な文法事項を簡潔に説明したハンドアウト (練習問題付き) を配布し、家庭学習させる。(文法はすでに一通り学習しているので、授

業で詳しく取り上げることはしない)

⑥細部理解 (二度目の通読。1時間配当)

音声教材を聞かせながら Finding Facts 型の質問と指示語についての質問を英語または日本語で行う。

⑦主体的読み (三度目の通読。⑧と併せて1時間配当)

本文に直接述べられていないことについて Making Inferences 型の質問を英語または日本語で行う。本課では Chester の思いが中間話法で語られていると思われる箇所に下線を引かせた。課によっては生徒の様々な意見を聞くこともある。

⑧テキストの全文訳の配布

内容確認の一助として配布する。生徒はその場で疑問点を確認する。机間巡視して質問に答える。

⑨音読 (1時間配当)

オーバーラッピング・シャドーイング (この2つの訓練はテキスト全文が対象)・リプロダクション・日英逐次通訳練習 (この2つの訓練は、時間の制約上、テキストの一部のみ) を行い、英語の内在化を目指す。紙幅の都合上、日英逐次通訳練習の手順のみ記す。

[第1ラウンド] T: センスグループごとに「頭ごなし訳」(e.g. “I saw her at the station / ... とあれば「私が彼女と会ったのは駅で…」とするような訳し方) を言う。

S: センスグループをテキスト上にスラッシュで区切り、テキストを見ながら一斉音読する。

(T→S→T→S…と続く)

[第2ラウンド] T: 同上。

S: テキストを見ずに一斉に英訳を発話する。

[第3ラウンド] T: 2つのセンスグループごとに頭ごなし訳を言う。

S: 同上。

[第4ラウンド] ペアワークで第2と第3ラウンドの練習を行う。

⑩リレーリテリング (⑪と併せて1時間配当)

4～5人単位のグループに分け、メンバー1人

ずつが配布された日本語による質問に順次英語で答えていくことにより、グループ単位で課全体の要約をする。完結するまで何順も行う。単に質問に答えるのではなく、グループとして協力し合っ

⑪感想・意見ライティング

課のテーマに関する Personal Involvement 型の質問に5分間で感想や意見を英語で書き、数人に発表させる。賛否両論が出そうな質問を設定する。本課の場合、次のような質問を行った。

At the end of the story, *the Book of Thoughts* was gone. Do you think it good or bad for Chester? And why?

女子生徒の作文 (原文ママ): I think it was good that *the Book of Thoughts* was gone. I have some reasons about that. First, he was going to know her thoughts. It means, in my opinion, he was not sure of her love to him. He must trust her to love him. Second, it is more interesting to communicate with others without knowing their thoughts.

男子生徒の作文 (原文ママ): I think it was bad. I feel anxiety. If someone had *the Book of Thoughts*, I read their mind before but next, my mind will be read by them. I never want my mind will be read. Never. So I'll be afraid.

⑬おわりに

本課の結末を予測できた生徒はほとんどおらず、この意外性が生徒を引きつけた。最後で課した作文の発表時にはクラスが賛成・反対に分かれて盛り上がった。生徒は音読やリレーリテリングによりある程度本文の英文を内在化しており、短時間で感想を書き発表する基礎を作ることができた。内容のある読み物をベースにして生徒の相互交流が深まることは、授業の醍醐味である。

(かとう はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校教諭)

大修館書店の指導資料・副教材

■教科書準拠指導資料・副教材

◎は生徒用副教材／定価＝本体価格＋税５％

教材名	判型	定価(税込)
■Captain English Course I・II [英 I 012] [英 II 013]		
教授用指導資料 [3分冊: Teacher's Manual/言語活動集/評価問題集]	B 5 判	7,350円
指導用 CD [3枚組]		12,600円
指導用 CD-ROM [英単語・熟語自動問題作成ソフト付]		7,350円
◎学習ノート	B 5 判	480円
◎生徒用 CD		980円
■Genius English Course I・II [英 I 013] [英 II 014]		
教授用指導資料 [3分冊: Teacher's Manual/〈Q & A 方式〉情報資料集/評価問題集]	B 5 判	8,400円
指導用 CD [4枚組]		12,600円
指導用 CD-ROM [英単語・熟語自動問題作成ソフト付]		7,350円
◎予習・復習ノート	B 5 判	480円
◎生徒用 CD		980円
■Departure Oral Communication I [オ I 007]		
教授用指導資料 [3分冊: Teacher's Manual/言語活動集/評価問題集]	B 5 判	9,450円
Departure Oral Communication I for ALT	B 5 判	1,575円
指導用 CD [5枚組・スクリプトブック付]		14,700円
指導用 CD-ROM [ディクテーション問題作成ソフト付]		7,350円
◎学習ノート	B 5 判	480円
◎生徒用 CD		980円
■Genius English Readings [英 R 005]		
教授用指導資料 [2分冊: Teacher's Manual/評価問題集]	B 5 判	8,400円
指導用 CD [4枚組]		12,600円
指導用 CD-ROM [英単語・熟語自動問題作成ソフト付]		7,350円
◎ワークブック	B 5 判	480円
■Genius English Writing [英 W 019]		
教授用指導資料 [3分冊: Teacher's Manual/ディクテーションカード集/評価問題集]	B 5 判	8,400円
指導用 CD [3枚組]		12,600円
指導用 CD-ROM [英単語・英作文・ディクテーション問題等作成ソフト付]		7,350円
◎ワークブック	B 5 判	480円

* ご採用見本をご希望の場合は、大修館出版販売本社（電話：03-3934-5110[代]）までご請求ください。

■副教材（価格は税込定価）

○Genius 大学入試対策問題集①（武田一著・音声 CD 付・B5判・980円）

○Genius 大学入試対策問題集②（武田一著・音声 CD 付・B5判・980円）

文法・長文・リスニング問題の3段階構えで、大学入試への基礎力から実戦力まで養成します。

○Genius 読解力養成問題集（小林功編・B5判・480円）

受験に頻出のトピックを実戦形式で練習できる長文問題集。懇切な解説・解答で自習に最適です。

○Genius English Grammar（岡田伸夫編著・A5判・600円）

○Genius English Grammar Teacher's Manual（B5判・2,600円）

文法事項の定着をはかり、さらに大学入試レベルまでをカバーしています。指導用 Teacher's Manual では、補足例文、授業で使える小テスト用補充問題もご用意しました。

○カラーワイド英語百科—The English Odyssey—（大谷泰照・堀内克明監修・B5判・900円）

英米文化の常識から環境問題まで、英語を学ぶ際に知っておきたい背景知識集です。手紙の書き方や語源など、「英語」にまつわる知識も満載。

○ジーニアス英単語2500 改訂版（新書判・1,000円）

動詞を重視し、入試問題から精選した例文で覚える単語集。高校必修語を品詞別に整理しました。テスト問題自動作成ソフト（Windows95/98版・7,350円）もご用意しました。

○ジーニアス英熟語1000 改訂版（新書判・1,000円）

試験で「どう出題されるのか？」にこだわり、中学～入試レベルの英熟語を収録しました。

○ジーニアス基礎英単語・英熟語1400（B6判・1,000円）

基本単語から高校教科書に出てくる単語までをテーマ別にまとめました。中学英語の総復習からセンター試験への基礎固めまで対応。

■英語教科書サイト

GCD English Teachers' Room

URL: <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

- ・各教科書のシラバス（ダウンロード可能）
 - ・教材リンク集
 - ・教材関連ニュース
 - ・大学入試問題（Departure OC I と関連した場面のもの）
 - ・英語教育最新トピックス
 - ・『GCD 英語通信』バックナンバー
- などをご紹介します（毎月15日ごろ更新）。

※巻末広告ページにもご案内があります。



Genius Captain Departure 教科書 Question Box

大修館書店版英語教科書に関するコーナーです。題材についての最新ニュース、本文の読みをめぐるQ & A、副教材のお知らせなど、教科書ごとにご紹介いたします。

Genius English Course I・II

Q. 『Genius 大学入試対策問題集①②』は教科書と併用すると、どのようなメリットがありますか。

A. *Genius I・II* 各課の文法項目の定着にも役立ちます。『Genius 大学入試対策問題集①②』（以下、対策問題集①②）はそれぞれ以下の文法事項を中心に編集しています。

対策問題集①：中学校の復習となる文法事項（基本文型、現在完了、関係代名詞など）から高校新出文法事項（過去完了形、完了進行形～仮定法、分詞構文など）

対策問題集②：①で扱った文法事項のまとめ（関係詞、助動詞、準動詞など）と①で扱わなかった文法事項（独立分詞構文、条件節のない仮定法、助動詞＋完了形など）

それぞれ文法事項の配列は、高校生にとって学んだ項目が身に付きやすいように心がけました。この点は、*Genius I・II* と同様の扱いとなっていますので、併用することによって授業の進度に合わせて課題を課すことができます。

なお、本年度からセンター試験にリスニングテストが課されますが、対策問題集のリスニング問題と大学入試のリスニング問題のレベルの関係は、おおよそ以下のようになります。

対策問題集①：センター試験レベル

対策問題集②：私大、国公立大2次試験レベル

リスニング問題は各課に平均して4～5問収めてあ

ります。教科書を進めるにあたって時間に余裕のある場合は、すぐにリスニング対策ができる点で便利です。もちろん短期の集中したリスニング力強化にもご利用になれます。

Captain English Course I・II

Q. 「本文シート・スクリプトシート」とは、どんなものですか。

A. *Captain* の教科書準拠 CD-ROM の中に「本文シート・スクリプトシート」があります。これは、教科書本文を1セクション1ページとして見やすい書式（Word形式）に整えたもので、訳などが書き込めるように下線もついています。それぞれのセクションにつき2パターン用意されていて、1つは英語のみ、もう1つはカタカナルビ付き（下図参照）となっています。

英語が苦手な生徒の悩みとして、「英語が読めない」

Lesson 4 Be Your Own Captain! <ルビ付き>

【Read & Think】Part 1

ヘロウ マイ ネイム イズ コニシキ
Hello, my name is KONISHIKI.

ワ、ドク ニ フイー ウェン サマ カム。
What do you feel when summer comes?

イン ハワイ、デューンナ、マー、イズ、ザ タイム オフ グラデュエーション
In Hawaii, June, not March, is the time of graduation.

ザ スイーズンズ ア デイファレント、バ、ザ サドネス、オブ、グッドバイズ イズ
The seasons are different, but the sadness of goodbyes is
ザ セイム
the same.

ウェン アイ ワズ イン ハイ、スクール、エヴリ デイ ワズ イクサイティング
When I was in high school, every day was exciting.

アンティスリー ウィーク、ビフォー グラデュエーション、アイ ワンティド、トゥ、ゴウ トゥ
Until three weeks before graduation, I wanted to go to

カレッジ ウィズ マイ フレンド、アン、スタディ ミュージック、オー、ロー
college with my friends and study music or law.

ということが挙げられます。このシートを活用することで、読める喜びを少しでも感じてもらえれば、と考えております。

カタカナルビは、初期設定ではすべての単語についていますが、部分的に必要なところ、あるいは教室で書き込ませたいところなどについては文字色を白にいただければ、印刷されず、しかも英語とルビがずれることもありません。

Departure Oral Communication I

Q. 昨年度から継続採用していますが、2005年度版の教科書で大きな変更はありますか？

A. 特に大幅な変更はありませんが、目立つところは以下の通りです。

- ・ p. 82, 口絵ページのマーライオンの写真を変更。
：2002年に移転されたことに伴う変更です。
- ・ Lesson 2 のタイトルを “What’s Wrong With You?” から “What’s Wrong?” へ変更。

：採用校のネイティブの先生からのアドバイスによるものです。ここは相手を気遣っての発言なのですが、「お前、一体どうしたんだ！」と詰問調で受け取られることがあるようです。そのような誤解を避けるため with you を削除しました。

Genius English Readings

Q. 『ワークブック』と『読解力養成問題集』の内容はどのように異なりますか？

A. 『ワークブック』は *Genius English Readings* に準拠した構成で、語句の意味や構文などを調べさせる予習編、本文の内容理解などを確認する復習編、定期試験対策としての長文問題の3段階構成となっています。『ワークブック』の方が教科書の内容定着レベル

を意図しているため、難易度的には比較的易しいです。

一方、『読解力養成問題集』は教科書準拠ではなく、入試即戦力を養成するために作られたものです。過去に3回以上大学入試に出題された問題をトピック別に集め、掲載しています。解答集には詳細な解説と全文訳、英文・和文での要約例まで収録しており、自習でも十分に使いこなせる内容です。

Genius English Writing

Q. 教授用指導資料別冊の『ディクテーションカード集』とはどんなものですか？

A. 教科書に掲載されている英文（各レッスンのモデル文および Exercise C の英作文例）を題材にした、ディクテーション用の小テストです。それぞれ、10点満点で、基礎（単語5語の穴埋め）、発展（単語4語＋フレーズ3箇所の穴埋め）の2題を用意しました。音声は、『Genius English Writing 指導用 CD』（税込定価12,600円）をご利用下さい。各文とも ‘Slow Speed’ ‘Natural Speed’ ‘For Dictation（ポーズを入れながら読んでいます）’ の3パターンを収録しています。

Q. 『準拠 CD-ROM』の内容は？

A. リニューアルした「自動問題作成ソフト」のほか、教科書、『ディクテーションカード集』、『評価問題集』のデータや、*Teacher’s Manual* 所収の「各レッスンの補充問題」及び「英作文の自己評価基準表」のデータを収録しています。

「自動問題作成ソフト」は、指定したレッスンで取り上げた単語や文法事項についてのテスト問題が1シートで作成できます。問題形式は、〈英単語・熟語→日本語〉〈日本語→英単語・熟語〉〈英文穴埋め（和訳付き）〉〈英文和訳〉〈和文英訳〉〈複合問題〉〈ディクテーション用カード〉の7形式から選ぶことができます。入試問題も多数収録しました。



〈連載〉

「^つ積ん^{どく}読」の本棚から【3】

異文化理解に大切なこと

——『ダーリンは外国人 2』『最新ニュース英語辞典』

山本良一

現代は国際化社会と言われる。internationalization は20文字もあるなが〜い語だが、ほとんどの学習辞典に載っている。globalization もかなりの掲載率だ。本、雑誌、テレビには、外国や外国人 (non-Japanese) の情報があふれるほどある。

でも、本当に国際化社会の一員として現代を生きようとするなら、われわれはもっと non-Japanese のことを理解したり、逆にわれわれのことを理解してもらったりする努力をする必要があるのではないか。

◎『ダーリンは外国人 2』（小栗左多里^{さおり}著、メディアファクトリー、2004.3）

タイトルからもわかるとおり、『ダーリンは外国人』（2002.12）に続く第2弾である。この本には、じかに non-Japanese と接触して初めてわかることが満載であり、とにかくおもしろい。本屋の人気本コーナーでよく見かけるのも当然である。第1弾はカラーページが10ページちょっとだったのが、本書では60ページ超にも増えている。売れてる証拠だ！

この本、実は漫画である。トニーというアメリカ人の夫と一緒に日本で暮らす筆者のさおりが、ふたりのちょっとした違いなどをいきいきと描いている。

トニーは語学オタクである。日本語にもうるさい。旧字にも詳しく、「廳」などという字もご存知だ。観察も鋭い。「大岡越前」の「お」は3つあるが実際には2.2くらいしか発音されてないと言う。そういえば、横浜に「上大岡」という所があるが、京浜急行の車掌さんは2拍分しか「お」を言っていないかも知れない……。

値切るのもトニーの得意技である。元値が1台

15,000円以上する携帯電話を2台とケーブルの3点を合計14,400円で買ってしまふ。そんな様子をときどきしながら見守るさおり。交渉することの少ない日本人である私にはさおりの気持ちがよくわかる。

ホームパーティーの苦手なさおり。たしかに知らない人がたくさんいる中で会話を交わすのは疲れる。そんなさおりに対するトニーのアドバイス。出身地や言葉、出される料理、趣味などを話題にすることで「その場を楽しむこと」、そして「会話が広がっていくこと」が大事だ。トニー自身、日本語があまりできなかった頃は、受付や焼肉係などを引き受け、話をするチャンスを作ったそう。『話す文化』への順応術といったところか。また、ルボ（本書で大きな章立てのこと）の最後にある「トニーのつぶやき」欄では、「知ったかぶりをしない」という tips を教えてくれている。

そんなふたりがよくわかり合えることもある。たとえばクリスマスの意味。ふたりとも日本のクリスマスに疑問を感じている。トニーはクリスマスを恋人と過ごすことに違和感を覚える。クリスマスと恋人は無関係。たとえば「お盆を恋人と過ごす」ことが定着したら不思議でしょう、と語る。おもしろい発想だ。

巻末には小栗氏のウェブサイトで実施したアンケート「ダーリンが外国人な人」への回答がいくつか紹介されている。その中から2項目引用する。

「ダーリンがお気に入りの日本語」には「昼マッパ」「ろくでもない」「あばよ」などというおもしろい回答がある。「ダーリンが疑問に思っていること」として「日本人は電車内で不作法」「日本人は日本語が世界一難しいと思いがち」などが挙げられている。ダーリンだけではない。私も町で毎日嫌な思いをしている。そ

れに、どんな言語だってやさしいはずはない。

最後に本書の真髄とも言えるさおりの言葉を2つ紹介しておきたい。

- ・違っているところを「イヤだ」と思うか「面白い」と思うか　そういうところで毎日が変わってくるという感じでしょうか（「ふたりのちがひ」より）
- ・考えてみれば私の常識＝世界の常識じゃないわけである……（「家事は大変」より）

この2つの言葉は、なにも外国人の伴侶を持つ人の感想にとどまらない。国際化社会に生きるわれわれが心にとどめておくべき格言である。もっと言えば、外国人とのつきあいにとどまらず、他人とのつきあいにおける金科玉条と言ってもいい。そういえば、1年前にこのコーナーで紹介した Robert Juppé 氏は、常々「国際化は人間化だ」とおっしゃって、ニンゲナイゼーションなどという言葉まで作り出してしまった。さおりの気づいたのと同じことであろう。

さて、拙宅には『ダーリンは外国人』もあったので読んでみたが、こちらの方が印象的であった。ただ、『ダーリン… 2』では外国人ダーリンにも読んでもらえるように漢字にルビがふってあるのが特徴である。

また最近『ダーリンの頭ン中』という、英語と語学をテーマにした本が刊行された。すぐ買って読んでみたが、これまた痛快な本である。次の本が出たら、ぜひまた読もうと思っている。

◎『最新ニュース英語辞典』（デイリー・ヨミウリ編、東京堂出版、2005. 1）

Non-Japanese のことを理解するのと同じく大切なのが、日本のことを理解してもらうことである。従前から日本を紹介する本はたくさんあったが、最近すばらしい本が出版された。それが本書である。

今年4月に『デイリー・ヨミウリ』が創刊50周年を迎えるのを記念して出版された本書は、現代の日本を英語で発信するための実に便利な辞典である。「政治」「経済」「社会・文化」「国際」「軍事・安全保障」「科学技術・環境」「スポーツ」の7つの分野別に語彙を収録してある。その収録語数が何と9,000語。現代日本を語るには十分な数であろう。最近ライブドアの件で話題になった「株式公開買い付け」も TOB (take-



ダーリンは外国人 2
小栗左多里 著
メディアファクトリー、2004. 3
本体価格 950円

最新ニュース英語辞典
デイリー・ヨミウリ 編
東京堂出版、2005. 1
本体価格 2,600円



over bid) という訳語に加え、内容に関する説明が載っている。同じ件で取りざたされた「焦土作戦」も scorched earth campaign [strategy] とあり、説明もある。

スポーツの分野は種目別になっているが、特に野球の所を見ると和製英語が多いことに気づく。タッチアップ (tag up)、アンダースロー (underhand pitch)、ワンポイントリリーフ (spot reliever) など枚挙にいとまがない。裏を返せば、それだけ「日本のもの」になっているということなのだろう。

ときどき付された例文はデイリー・ヨミウリなどからの引用で、いわば生きた例である。また、グラフや図示などの視覚に訴える部分も理解を助けてくれる。

それから、随所にあるコラム記事も読んでいてためになる。「失言」(a slip of the tongue) では前首相の発言にも言及し、「スンニ派とシーア派」(the Sunnis and the Shiites) ではイラクについても説明し、「ハットトリック」(hat trick) では、その語源も紹介してくれる。

至れり尽くせりの本書であるが、発信という目的を考慮すれば、もう少し例があるといい。ページ数の関係で無理だったのだろうが……。とはいえ、会心の1冊であることに変わりはない。4月から総合的な学習の時間で、「英語で紹介する日本のこと」という授業を担当する。大いに利用させてもらいますっ！

(やまもと りょういち・筑波大学附属高等学校教諭)

英語習得の「常識」「非常識」 ——第二言語習得研究からの検証

白畑知彦 編著
若林茂則・須田孝司 著

横田秀樹
(三重県立四日市高等学校教諭)



本書は、第二言語習得研究の分野で世界的に活躍する3人の著者により、当該分野の最先端研究をもとに書かれたものである。

世間の一般常識の中にも事実であるものとそうでないものがあるように、これまで英語教育において「常識」と言われてきたことの中にも疑うべきものがある。

「文法は教科書で習った順に覚えていく」のか？「外国語学習は音声から導入されるべき」か？「教師が誤りを直すと効果がある」のか？ こういった英語教育に携わる者にとって「常識」とされることに關して、本書は第二言語習得研究の客観的視点から検証し、その真偽を確かめていく。「俗説」と「第二言語習得研究の知見」の違いは、実証的なデータに基づき、論理的に反証可能な形で示されているかどうかという点である。そのような「俗説」の根拠を確かめる姿勢が本書には貫かれている。

一方で、本書はもうひとつの「第二言語習得研究への入門」という側面も持ち合わせる。言語習得研究と言語教育研究は、互いに関連しながらも全く異なる目的を持った別の研究である点に言及しながら、第二言語習得研究の面白さと楽しみ方を訴える。例えば、第6章では、英語耳や右脳学習といったことを銘打った宣伝文句のような巷に広がる「常識」とされる内容の信憑性を確かめたり、某テレビ番組での子音と母音の比較研究の矛盾を指摘(第7章)したりするなど、言語習得研究の醍醐味や基本姿勢を示している。筆者が言うように第二言語習得研究と英語教育の目的は異なるが、我々現場の教師が、その二者を結びつける研究を進めていくのも面白いであろう。

第二言語としての英語習得は、本来多くの時間を必要とするはずであるが、我々中高の教員は限られた英語の授業時間を効果的に使う必要がある。また、英語は、時代とともに授業方法を考え直す必要に迫られることも多い。そのような中、我々英語教師は、「俗説」に振り回されず確かな目を持って次の授業の改善を図っていききたい。日々授業の工夫を重ねている先生方には、是非とも本書を手にとり読んでいただきたい。特に英語教育と直接関係するのは、第2章「学習者の習得順序と外国語の学習法について考える」、第3章「学習者の誤りについて考える」、第4章「学習者要因について考える」であろう。本書から得られた知見をもとに、自分の授業を次はどのように変えてみようかと考えるだけで楽しくなってくるはずである。

教室で読む英語100万語 ——多読授業のすすめ

酒井邦秀・神田みなみ 編著

酒井良介
(私立武蔵高等学校・中学校教諭)



本書の編著者の一人、酒井邦秀氏が提唱する100万語多読学習法は近年大きな関心を呼んでいる。氏は本書の第1章で教員の役割として「多読指導三原則」((1)教えない、(2)押しつけない、(3)テストしない)を挙げている。

いずれも学校での英語教育には相容れないようにも思われるが、この三原則に則って多読を授業に取り入れるにはどうすればよいのか。第2章では、教室での個人指導のあり方から、必要な図書の冊数・予算、本の陳列方法(写真付き)に至るまで、具体的な提案がなされている。

一方、現場の教員としては様々な環境での実践報告を聞いてみたいという願望がある。教室での多読となると、その原則や効果以外に気になる点がいくつもあつたのだ。本の準備以外にどのような準備が必要か、評価をどのようにすべきか、予想される苦労や問題は何か

か、などはその最たるものであろう。

本書の第3章では学校現場における多読実践例が詳細に紹介されており、上記の疑問にも真正面から答えている。とりわけ成績評価についての報告は興味深い。大学の授業では出席や英語運用能力試験の結果を参考としたり、高校や高専のように外部試験を導入できない環境では、多読の方針に合った読解力試験を行ったり、読書記録やサマリーを提出させたり、と現場の悩ましい対応が伝わってくる。

第4章では「多読指導のひろがり」として主に社会人と小学生以下を対象とした実践報告が並んでいる。この章に最も多くのページが割かれているのは、学校の英語教育での多読指導に多くの制約があることを反映しているようにも思われる。ただ、高校や高専でも有志の生徒によるサークル活動から始めた例も紹介されており、学校外の指導例はこのような課外活動形式での導入に大いに参考になるであろう。

これまで多読の奨励書といえ、多読の長所だけをひたすらに説くものが多かった。しかし、昨今の多読ブームのなかでは、本書のように誠実に現場の声を伝え、教室での実践に伴う問題点やその解決法を示していく姿勢こそが、学校現場に多読を浸透させていくための鍵となるのではないだろうか。

同時に、本書の編著者らが展開する多読学習法のプロジェクトは学習者と指導者の実体験をもってその効果を物語っているが、欲を言えば、今後は並行して多くの実証的な研究報告がなされることも期待したい。

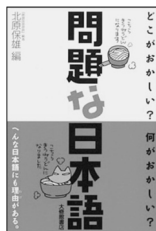
問題な日本語

——どこがおかしい？ 何がおかしい？

北原保雄 編

高草真知子

(麗澤大学・麗澤中学高等学校講師)



麗澤中学高等学校では、クラスの学級文庫に一冊ずつ『問題な日本語』を置いている。中学ではまだ早いかと思ったが、『毎日中学生新聞』にも取り上げら

れたし、何よりこの本の4コマ漫画(いのうえさきこ画)がおもしろいので、この漫画を読むだけでも、最近の日本語のちょっとおかしい表現に気づいてくれるだろうと考えたのだ。

My favorite 4コマは、「こちらきつねうどんになります」。タオルを持ったきつねが、どんぶりに入ったうどんの湯加減を見て、うどんの中にちゃぶんちゃぶんとして入っているところ。何度見ても煩ざりしたくなるほどかわいい。「こちらきつねうどんになりました」と店のオパハンが言うのが最後のオチなのだが、客の腹巻をしたオヤジが「正確だな」と無表情に言うのも笑える。

ファミリーレストランなどでよく聞かれる「こちら和風セットになります」という言い方。「ええっ、いつのまに和風になったのよ。前は洋風だったわけ？」とツッコミを入れたくなるが、実はこれはお客様に対する店側の謙虚な姿勢の表れなんだそう。『こちら和風セットです』よりも丁寧で畏まった表現として、「こちら和風セットになります」を用いているという。でも、「なる」には、〈新しい状況の出現〉、〈非人為的〉、という意味があり、「和風セットになります」は、やはりおかしい。「和風セットでございます」が正しい接客表現だとか。これなら私的にはOKです。(ちなみに「私的には」も問題のある表現。詳しくは71ページを見て。)

さて、高校三年生の秋ともなると、大学入試の面接指導が始まる。あるとき生徒が「私の志望動機はそれとは違^わう^くて……」と言うので、「違^わう^くてという言い方は変よ」と言うと、「ええっ、ダメなんですか。どうして。みんな使ってますよ」と言い返してきた。「えーと、どうしてだろう……」と、口ごもる私。

そのほか、「貴校の建学の理念に感銘を受けました。な^ので、志望^し望^ぼします」「施設がす^ごい立派で、こ^っちの方が全^て然^らいと思^いました」「つ^てい^うか、大^が学^が生^がが親^し切^きだ^った^ので、す^ごい親^しみ持^もて^るつ^てい^うか」「その分^べ野^えにはな^にげ^に興^き味^みが^あっ^たの^で」なども、気になる言い方である。でも、なぜおかしいのか、本当に誤用なのかはよくわからない。その疑問にわかりやすく答えてくれるのが、この本なのだ。だから、教室に一冊あると便利である。